

知事記者会見の概要

日 時：令和元年5月8日(水) 10:00～10:28

場 所：記者会見室

出席者：知事、総務部長、秘書課長、広報広聴推進課長

出席記者：14名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、代表・フリー質問に知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

代表質問

- (1) 令和を迎えた心境と今後の県政運営等について
- (2) 参議院議員選挙への対応について

フリー質問

- (1) 県内市町職員の飲酒運転について
- (2) 山形空港で発生したフジドリームエアラインズ機の滑走路逸脱について
- (3) 代表質問1に関連して
- (4) 市民オンブズマン山形県会議による県議会の政務活動費に係る申入れ
に関連して

<幹事社：河北・共同・TUY>

☆報告事項

知事

皆さんおはようございます。風薫る 5 月となりました。長い連休も終わりました。ゴールデンウィーク中は山形の観光をお楽しみいただけましたでしょうか。

ゴールデンウィーク中、4 月 25 日から 5 月 6 日までの 12 日間でありますけれども、その間の入込み状況について、詳細は集計中ではありますが、今年のゴールデンウィークは 10 連休となったこともありまして、それから期間中概ね良好な天候でありました。また東北中央自動車道、山形上山・南陽高畠間の開通の影響などから、現在聞いている限りでは、屋外のイベントや観光地での入込み数が昨年よりも伸びる見通しであります。なお全体の観光客入込み状況につきましては、まとまり次第改めて情報提供いたします。

それからこの度の 10 連休、本当に長い連休でありましたので、県庁におきまして県民の皆様から医療や社会福祉など幅広い分野について、急を要する相談を受け付ける緊急相談窓口を開設しておりました。相談の受付状況ですが、10 日間で 6 件の相談がございました。内容はですね、県庁や保健所の開庁日に関する問合せや、統計調査に関する確認の問合せなどでありました。いずれも速やかに対応を行ったところであります。

それでは、恒例となりました、祭りやイベントのご紹介をいたします。

本日から明後日 10 日までの 3 日間、山形市で「薬師祭植木市」が開催されます。400 年以上の歴史を持つ植木市は、山形城主の最上義光公が、大火で焼失した城下に緑を取り戻そうと住民に呼びかけたのが始まりといわれております。薬師公園と周辺約 3 キロの通りに、植木や縁日などの露店が約 400 店出店して、大勢の人で賑わいます。

それから 5 月 10 日から 31 日まで、長井市の白つつじ公園で「白つつじまつり」が開催されます。「七兵衛つつじ」と呼ばれる樹齢約 750 年の古木群を含む 3,000 株の琉球白つつじが咲き誇り、雪が降り積もったかのような一面純白の世界が広がります。また期間中の 5 月 18 日と 19 日には、「ながい黒獅子まつり」が開催されます。長井市内にある神社の黒獅子が一堂に会して勇壮な舞を披露します。

県民の皆様も、ぜひお出かけいただければ、というふうに思います。

私からは以上になります。

☆代表質問

記者

幹事社の TUY 高木です。よろしく願いいたします。2 点お伺いします。

まず 1 点目が元号が令和に変わって、今の心境とご所感をお伺いしたいです。併せて、元号が変わって改めて県政課題をどのように捉えていらっしゃる、それを解決するためにどのように県政運営にあたっていかれるおつもりか、ということがまず 1 点です。

2 点目が夏の参議院選挙までおよそ 2 か月ほどとなりましたけれども、具体的に知事がどういった形で動かれるおつもりなのか、現時点でかまいませんので教えていただければと

思います。よろしくお願いいたします。

知事

はい。わかりました。では1点目であります。

5月1日に天皇陛下が即位され、令和の時代が始まりました。県内も祝賀ムードに包まれ、改元とタイミングを合わせた婚姻や改元初日に誕生した赤ちゃんについてなど、明るい話題が報じられたところであります。

4日には皇居で一般参賀が行われ、多くの方が天皇皇后両陛下のご即位のお祝いに参じておられました。県でも4月30日と5月1日にご退位に際しての感謝とご即位に際してのお祝いのお気持ちをお受けする記帳所を設置しましたところ、感謝の記帳は2,274件、お祝いの記帳は2,305件と多くの方に記帳していただいたところであります。

紙面やニュースでは、令和が「平和で穏やかな時代に」とか、「活気のある時代に」、そして「若い世代が希望を持って働けるような時代に」なってほしい、といった皆さんの声が伝えられております。

私も令和の世が、平和で安全で、平和で希望にあふれて、経済が活性化し、災害も無く、誰もが安全・安心に暮らせる、そういう素晴らしい時代になってほしいと改めて思っているところであります。そしてそのような時代にできるように、私自身も前向きに全力で取り組んでいきたいと、決意を新たにしているところであります。

ご質問の後段ですけれども、令和の時代を迎えた中にありましても、人口減少への対応は県政の最重要課題でありますので、改めて、少子化対策や、若者の県内定着・回帰、健康長寿日本一の取組みなどをしっかりと進めていく必要があると考えております。

また産業振興につきましては、本県の優れたものづくりや農業の技術などを活かしながら、ICTなどの先端技術を積極的に導入してイノベーションを拡大し、新たな価値の創出や、生産性向上による人手不足の解消を図っていくことが重要だと考えております。

さらに人口減少の下では、山形県の活力を維持向上させていくためにも、国内外の旺盛な活力を取り込んでいくということが重要でありますので、先月の東北中央自動車道の開通などを追い風に、観光交流のさらなる拡大や、県産品の販路拡大などに積極的に取り組んでいく必要があると考えております。

併せまして、地方創生の基盤となるフル規格新幹線の整備や空港の機能強化など、高速交通基盤のさらなる充実も進めていかなければならないというふうに思っています。

これらとともに、頻発化・激甚化している自然災害への対応など課題は山積しており、いずれも全力を挙げて対応していかなければならないと考えております。

こういった状況の中、新たな元号であります「令和」を迎え、改めて今後の県政運営にあたり、県民の皆様の幸せのため、そして未来の世代のためにも、新しい時代の礎をしっかりと築き、本県の未来を切り開いていかなければならないとの思いを強くしたところであります。これまで以上に、こうした県政発展に向けた取組みを力強く推し進めていきた

いと考えております。

2点目であります。参議院議員選挙への対応というご質問でありますけれども、4月の定例記者会見でも「まだ考えておりません」とお答えをさせていただいたところでありますけれども、現在もその状況に変わりはありません。22日からは改選後初となる令和元年山形県議会5月臨時会も開催されますので、当面は公務に邁進したいと考えているところであります。

☆フリー質問

記者

さくらんぼテレビの白田です。今日一部報道でもあったのですが、朝日町の男性職員が飲酒運転で検挙されるということがありました。今年に入ってから、公務員の、県職員ではないですけれども、公務員の飲酒運転がおそらく3、4件目ぐらいだと思うのですけれども、多く発生しているなという印象があります。県としては、条例を作って撲滅に向けて取り組んでいると思うのですけれども、その中でこういった状況を知事はどう受け止めていらっしゃるのか、そして改めて飲酒運転について知事が呼びかけたいことを、あればお願いいたします。

知事

そうですね。飲酒運転というのはとにかく撲滅しなければならないというふうに思っております。交通事故防止の中でもですね、飲酒運転というのはやはり、なくしてしまう、なくさなければならないというふうに、みんなで力を合わせてそのように取り組んでいかなければというふうに思っております。

そういう中で何件か、もう今年になってから起きているということは、大変残念な思いがいたします。

そうですね、お酒を飲むなどとは言いませんけれども、やはりその意識ですね、お酒を飲んだらとにかくハンドルは握らないというその意識を、もっともっと徹底させなければならないというふうに思います。

飲んでからではもう、やはり正常な認識といいますか、考えではなくなるかもしれませんので、やはりそれぞれの職場でありましたり、ご家庭でありましたり、さまざまな分野です、飲んだら乗るなということを改めてもっとしっかりとね、お互いにその認識を強く持つということが大事ではないかなと思っております。一旦飲酒運転を起こしたら、大変なことになるわけでありまして、人身事故などになりましたら、もう本当に犠牲者も出るわけでありまして、本人の一生にも大変大きな影響が及びます。

そういったことで、「お酒を飲んだら必ず自分で運転しない」ということはね、もう一度大きな注意喚起ということをしつかりと県としても行って、県民みんなでしっかりと自制をしていかなければいけないというふうに思っております。

記者

TUY の高木です。よろしくお願いいたします。

先月ですけれども、FDA の航空機が山形空港で滑走路を外れ離陸できずに、といった事故がありまして、それで今日もですね、JAL のほうで、システムトラブルで山形空港の午前の便も到着、今、非常に遅れている。あとは午後も欠航予定になっているという状況なのですけれども、知事は先ほど空港の機能強化というようなことをおっしゃいましたが、こういった状況が頻発しているような、航空機の安定輸送の面で非常に不安になるような状況が起きているわけですから、それに対するご所感をお伺いできますでしょうか。

知事

はい、わかりました。

まず、と言いますか、FDA のことについてちょっと申し上げますけれども、先月、4月の23日でありましたが、発生した滑走路逸脱に関して、乗客、乗務員ともに、負傷者がいなかったということは、まずは、安堵したところであります。

FDA の三輪社長からですね、その翌日、4月24日でしたけれども、私に対して直接、事案のご報告とお詫びをというお電話をいただきました。私のほうからは、とにかく安全性についてしっかりと取り組んでいただきたいということを、申入れを行ったところであります。

なお、その日中に、同日には空港の運用が再開されまして、FDA としても自主点検を行った上で、正常な運航を再開したところであります。

そうした中で、FDA とは再発防止に向けて、自主点検を受けた対策の情報交換や協議を行ってきたところであります。引き続き、緊密に連携をして、これから出される国土交通省の調査結果も受けながら、今後の安全対策など、適切に対応したいというふうに思っております。

そうですね、今日の午前中のことに関しては、まだ私のところに報告をもらっていないのですけれども、やはりこの連休の間もですね、かなり搭乗率も高かったようであります。

そういう中で、安全性に関して、ちょっと心配な点が何度か起きているということは、やはり空港を利用される方々、県民も県外の方々も合わせて、皆さんご利用なさる方全員なのですけれども、やはり安全性ということが一番やはり大事なところでありますので、空港の機能強化は、もちろんこれは県として推し進めていきたいという思いがありますけれども、大前提がその安全性だと思っております。

各航空会社の方々に対してですね、しっかりとその安全性というものを申入れなども行いながらですね、利用される方々が本当に安全に、安心してご利用できるようにしていかなければいけないというふうに思っております。

記者

日本経済新聞の浅山です。

先ほど元号が変わった件ですね、人口減少への対応が県政の最重要課題というふうにおっしゃっていましたが、平成の後半を通じてですね、ずっと課題でありですね、これといったなかなか成果も生まないままですね、進んでいるかと思います。

元号が変わって、新しい時代になりまして、特にやはりこういう点に、従来に踏み込んで対応しないことには難しいのではないかと、従来、なかなかここまで行政なりですね、施策が打てなかったところにもう少し踏み込んでいかなければいけないのではないかなど、何かそういったことでもしお考えのことがあれば、お願いします。

知事

そうですね、やはり特効薬というものがあれば、全国でもうやっているかなというふうにも思っているのですけれども、やはりねばり強く取り組んでいくというのが一つは大事なことかなと思っています。

県と、それから35の市町村あるわけですが、その関わりを従来以上に強くしまして、県と市町村とで、まず一つの大きな会議というのでしょうかね、何か取組みを前に一歩進めるということで、今年度は強化することにしております。

これは東北初ということでもありますけれども、一つの組織を作るといいますか、それぞれの市町村でやっていたということですね、県と市町村とで一緒になって山形県への受入れでありましたり、移住政策でありましたり、そういったことに一歩前に前進して取り組んでいきたいというふうに思っています。

そういうことで、例えば移住をご希望されている方がですね、「山形県のどこに行ったらいいか」というようなことがあるかと思いますが、山形県全体のご紹介と、それからそれぞれの地域の特性でありましたり、農業をやりたい方で「トマトを作りたい」という方であれば、「何々町のこういうところがありますよ」というご紹介もできるようになるわけがありますし、そういったこともやっていければなと思っています。

まだこれからそういったことに取り組むわけなのですが、まず県と市町村が力を、従来バラバラというかそれぞれの取組みだったのを一つにして取り組むということが一つあるかなと思っています。

記者

圧倒的に数で言うと、出生、産まれる子どもの数が少ないと。婚姻率も下がっている。それで山形県が一番だった三世帯同居率もどんどん低下してしまっていて、なかなか家庭でそういうことを担うのも難しい、と。

そうすると、やはり個々ですね、個人の感覚であり、考え方に踏み込んで、「子どもを産みなさい」という、この時代に言うわけにはいかないでしょうけども、何か従来と違っ

たことをやらないと難しいのではないかという、もしお考えがあるのかどうなのか。

知事

そうですね。私自身はというと、個人ということはないわけなのですけれども、でもやはり山形県が取り組んできたのではですね、全国に先駆けているかなと思うのが一つありますが、それはやっぱりライフデザインということだと思います。

高校生、大学生の頃から、自分の一生というものを考えてみる機会を持ってもらうと言いますか、そういったことはやはり家庭を持ったりですね、子育てをしたりすることを意識してもらうというのは、一つは有効なことではないかなと思っているところです。

それから、三世代というようなこともですね、同居というのは日本一なのですけれども、それもだんだんと低下しているかもしれないということもありますけれども、その良さというのをやはりもう一度見つめ直すということで取り組んできました。

それで、すぐに効果が上がったということではないのですけれども、ただ、漏れ聞いているところでは、最近結婚する方がですね、若い人が以前よりも親との同居が多いようなことも漏れ聞いておりますので、データはちょっとまだないのですけれども、やはり山形県の良いところというところをね、しっかり伸ばしていくことが大事ではないかなと思っております。

課題というものもあるわけなのですけれども、その課題を克服しながら良い点を伸ばしていくという、昔ながらの三世代同居ということではなくですね、やっぱりお互いに協力しながらの同居というようなことになるかと思うのですけれども、いろんなノウハウなども御提供しながら、子育て推進部もですね、そういったことに取り組んでいるようであります。ですから、そういったことを継続するということがやはり力になっていくのかなと思っています。ただ、本当に、結婚観とかね、記者さんのおっしゃった出生数とか出生率ですけれども、まさに個人にまで踏み込んでしまうということが一番悩ましいところなのかなと思っています。

ただ、やはりライフデザインということで、若いちはいいのですけれども、身体がいうことをきかなくなってきた、高齢化していく中でどういうふうになっていくのかですね、そういったことも周りで教えてあげるといってもやはり、いろいろな選択肢はあるのですけれども、まず、結婚と仕事が両立できると。仕事と生活の両立ですかね、ワークライフバランスという言葉が使われて久しいのですけれども、なかなかその環境がね、目に見えるほど整っているかと言えばまだまだだと思っておりますので、やはり行政としてもそういった環境をできる限り整うように取り組みながら、男性も女性も共に働き、共に生活しやすい、そういった社会を作っていく、そういうことが大事なのかなと思っています。

ほんとに悩ましいところですね。結婚観でありましたり、また子育てというところですね。ですが、希望をとってみると「結婚したい」という希望は結構高い率なので、希望が叶うような取組みをしっかりとっていくことが大事かなと思っています。

記者

朝日新聞です。星乃です。よろしくお願いします。昨日、市民オンブズマンの方が、議会のほうにいろいろ政務調査費（補足：現在の名称は「政務活動費」。以下同じ。）の改善点について申入れをなさいました。

その中で、自家用車での政務調査に要する燃料費諸々の支出として、キロメートル当たり 37 円というのが高いのではないかと、という指摘をされています。これは議員さんだけではなくて、県の職員さんも含めて、決まり事でみんなそうになっているというふうに主張しておられるのですけれども、この金額の妥当性について知事はどういうふうにお考えになっておられますでしょうか。

知事

キロメートル 37 円というのが高いか低いか。

記者

時勢の燃料費その他に合致しておらず、要らぬ公金の支出を招いているのではないかと、いうふうに指摘しておられます。

知事

はい、そうですね、ちょっとその当時の燃料代とかも調べさせてもらいたいと思います。即答はちょっとできかねますので。

記者

わかりました。あとですね、星川議員の件については、県のほうとして控訴はしないというふうな方針であるということ伺いましたけれども、今後ですね、その政務調査費の支出について改善するポイントがあるとしたら、どんなところがあるかお考えを教えてくださいいただけますでしょうか。

知事

政務調査費のことですか。そうですね、議会で政務調査費ということについてはしっかりとご審議されることだと思っておりますので、議会と執行部は県政の両輪ということでもありますので、私がおのことにコメントはちょっと差し控えさせていただきたいかなと思います。議会でしっかりと考えていただければと思います。

記者

はい、ありがとうございました。